

滞在型研究員報告書（様式2）

（2008 年 9 月策定）

国立天文台滞在型研究員の方には期間中の成果について報告をしていただくことになっております。このフォームに記していただき期間終了 2 週間以内に国立天文台研究支援係にご提出ください。なおこの報告書は研究成果の論文掲載前でも研究交流委員会の web 上に公開いたしますので、研究内容の詳細について記入していただく必要はありません。この研究の成果を学術誌等で発表するときはその旨を謝辞に記載してください。

所属 京都産業大学 理学研究科物理学専攻 池田研究室

氏名 北尾 栄司

受け入れ 氏名：大屋 真

滞在期間 2011 年 7 月 25 日～ 2011 年 08 月 19 日

I. 滞在型研究員として国立天文台滞在中に行った活動について簡単にお書きください。

- ・小型 A O 実験用テストベッドの構築（光学設計、光学アライメント）
- ・上記ユニットの、各光学素子の性能評価実験
- ・構築したユニットを用いた波面補正実験
- ・波面補正光学に関する学習（OpenLoop／ClosedLoop の原理、制御系の動作原理 等）
- ・DeformableMirror の動作原理学習・動作実習、及び操作に必要なソフトウェアの実習
- ・WavefrontSensor の動作原理学習・動作実習、及び操作に必要なソフトウェアの実習
- ・すばる望遠鏡、特に A0188 の装置見学・観測見学

II. 今回滞在型研究員として得られた成果について簡単にお書きください。

- ・補償光学全般に対する基礎知識の習得
- ・光学素子のアライメントに関する技術・知識の習得
- ・A0 駆動に必要な電気素子の原理とコンピュータを介した駆動方法に関する知識の習得
- ・小型 A0 開発への足がかりとなる、基礎波面補正データの取得
- ・現行の A0 技術、特にすばる A0188 に関する知識の習得

III. この制度についてなにか御意見がありましたら、なんでも記入ください。

この度の滞在型研究員としてのハワイ観測所滞在中では、大変多くの知識や技術を学ぶことができ、非常に貴重な経験を積ませていただきました。

また、光栄な事に今回の私の滞在中が、ハワイへの初の滞在型研究員派遣であると聞き及んでおりますが、今後この制度を利用することで、研究者がハワイ観測所を訪れる機会が広がる事になれば、多くの研究者にとって非常に有意義な事であると感じました。